

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Uプロフェッショナル				公表日	2026年 3月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		瀬戸スタジオでは、運動室、書道室、おやつ の部屋をその日の活動やお子さまの状態に合 わせて使い分けています。目的は、みんなが 落ち着き安心して活動できること、スタッフ が安全管理ができる配置がとれること、で す。 公園や障害者スポーツセンターなどの他施設 も利用し、様々な場所での経験をつめるよう 工夫しています		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切である か。	3		活動内容や考えられるリスクに対応できるよ う職員を増やしています。 必要に応じて個別対応もできるように配置し ています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている か。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化 や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		子どもが見通しを持って安心して過ごせるよ うに活動ごとに場所を分けています。 また、物の配置なども視覚的に分かりやすく しています。 瀬戸スタジオは階段を登って2階にありま す。介助が必要な場合にはスタッフが行いま す。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、 こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		生活空間は日常的に清掃、整理整頓を行い、 清潔で心地よく過ごせる環境作りをしていま す。 また、子どもたちが活動しやすく分かりやす いように視覚的な工夫を取り入れ、必要でない ものは置かないなど、活動に適した環境設 備を行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認めら れる環境になっているか。	3		運動室、書道室、おやつの部屋をその日の活 動内容やお子さまの状況により使い分けてい ます。個別の部屋やパーテーションなどを準 備できます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り） に、広く職員が参画しているか。	3		正職員だけでなく、パートさんやサポーター さんとも目標を確認し振り返りを行い、さま ざまな視点で子どもや支援を見直すことでよ り良い支援につなげています。 職員全員が共通理解をもっています。	毎日全員が顔をあわせてミーティングができ る体制ではないため、一度のミーティングの 質を高めていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設け ており、その内容を業務改善につなげているか。	3		いただいたご意見を大切にしています。毎日 の活動やイベントを考える時にご意見を参考 にさせていただいています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に つなげているか。	3		毎日のデイの振り返りをするときや、定期的 な事業所内のミーティング、また日頃のやり 取りの中で把握するようにしています。 また、その都度必要に応じて話し合いをし て、迅速に改善につなげています。さらに、 定期的なミーティングを実施し、職員の意見 や提案を取り入れながら業務の見直しや支援 の質の向上につなげています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている か。		3	外部機関による第三者評価は受けておりませ ん。頻繁に利用している公共の施設や、外部 講師として入ってくださる講師の皆さま、ま た関わってくださっている機関の皆さまのお 声を大切に、自分たちの支援や考え方を振り 返し見直しています。	今後、第三者評価を受ける検討をしていきま す	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で 研修を開催する機会が確保されているか。	3		興味のある研修は勤務で受講できるようにし ています。また法人内でそれぞれが受講した 研修などの内容を共有し自己研鑽に努めてい ます		

11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		子ども一人ひとりの発達段階や特性、ニーズに応じて作成しています。また、支援内容や目標については、保護者への説明を行い共有しています。プログラム内容についても、保護者にいつでも公表できるようにしています。	
12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		アセスメントツールを利用してこぼれることがないように工夫をしています	スタッフ個々のアセスメント力を磨いていきます
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		日頃の様子やニーズを各スタッフが共通理解をし、練った支援を計画におとしこめるようコミュニケーションをとっています	日々の支援を言語化する力を磨いていきます
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		日々の記録を書くときに計画を意識して、時には見返して書くようにしています。計画を職員間で共有、日々の記録やミーティングを通して支援内容も確認しています。記録等により計画を意識しながら情報共有を行い、計画に沿った支援をしています。	
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		法人で共通して利用している支援システムの中にあるアセスメントツールを使用しています。同じものを使っているので法人内のスタッフ間でも相談がしやすいです	スタッフ個々のアセスメント力を磨いていきます
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		ガイドラインを確認しています。子どもさん一人一人の状態や何をすべきかを一番に考え、ガイドラインにこだわりすぎることがないように気をつけています。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		担当の曜日やイベントについて各スタッフで立案しますが、チームでより良い案や方法を考えています。主に担当職員が立案していますが、内容が偏らないようにチームで話し合い、アイデアを取り入れながら検討しています。多様な視点を大切にし、子どもにとってより良い活動になるように努めています。	さらに子どもたちの「やりたい」を実現できるようにスタッフのマネジメント力の底上げをしています
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		大筋の活動は同じでも、来所する子どもさんによって中身を変えたり、細部を変更するなど工夫をしています。子どもたちの意見や興味、関心を取り入れながら内容も工夫しています。また、職員間でも話し合い、新しい活動を取り入れるなど、子どもたちが楽しみながら参加できるように工夫しています。子どもたちの「やりたいこと」を聞き内容に盛り込んでいます。	
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		子どもさんそれぞれの状況にあわせて、個別と集団の活動を組み合わせ支援をしています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		その日のデイの前には担当スタッフで打ち合わせをしています。子どもさんそれぞれの状態を共有し、気をつけるべき点や配慮をすべき点などをお迎えにいった時から活動中、自宅へ帰るまでの場面をイメージし共有しています。デイ中に発生する想定外のイレギュラーなども必要に応じて連携し支援しています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		パートさんやサポーターさんから発信される内容も含め共有して振り返り、次のデイに活かしています。	日々出てくるたくさんの情報を効率よく共有し次の支援へいかせるよう工夫します
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		個別支援計画も確認しながら記録を行います。後から振り返りやすい記録になるよう画像をのせています	

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		ご家族に時間をとっていただき、現状や困りごと、うれしいことなどをお聞きしたりお伝えをする中で次の展開や支援を考えています。	見やすくわかりやすい個別支援計画になるよう努力します
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	3		複数を組み合わせ、なおかつ子どもたちに「楽しい」を届けられるよう支援をしています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		小さなことでも自分で選んだと感じられるような場面を作ることを意識しています。また、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、その思いや興味を見逃さず、主体的に活動に参加できるように支援しています。	より良い支援をお届けできるよう自己研鑽をつみます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		担当者会のほとんどが放課後開催なので、勤務などの調整を重ねて出席をしています	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		ケースを重ねるごとに連携する機関が増えており、その関係を大切にしています	地域とより深くつながることができるよう努めます
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		感染症が広がっているときなど大きな変更もよくありますが、学校や保護者からご連絡をいただき臨機応変に対応をしています。	連絡の行き違いなどはあるため、抜かりなく情報共有ができるよう工夫を重ねます
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		新1年生の利用開始前には、通園先へ見学に行かせていただいたり、通所サービスの方と情報共有をさせていただいたりしています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		スムーズに次のライフステージへ進めるよう、丁寧に共有することを心がけています	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3		様々な研修や、実際の事例を通して関係機関にアドバイスをもらい適切な支援ができるようつながりをもっています	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3		法人で開催のイベントには福祉サービスを利用していても参加できるものもあり、地域の子どもと交流する機会となっています。また地域のお祭りやイベントへ出かける機会も多く設けています。	地域の子どもたちと一緒に活動できる機会を多く持てるよう、関わりを続けていきます
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3		現在は参加していません	自立支援協議会とも連携ができるよう情報収集し行動していきます
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		気になる点や嬉しいできごとなどを共有させてもらっています。日ごろから送迎時やの対話やLINE、電話などを通して、子どもの様子について保護者と情報共有をしています。また気になる点だけでなく、できたことや嬉しい成長の様子も随時お伝えをし、子どもの発達状況や課題についても共通理解を深められるように努めています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		法人内では行っていませんが、外部の研修等の情報がいった時には情報提供をしています	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約時にご説明させていただいています	全てを網羅する説明はかえって分かりにくくなるかと考えています。より分かりやすい説明ができるよう工夫していきます
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		意向を確認し個別支援計画へ反映させています	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3		説明をしています	より分かりやすい説明になるよう工夫をします
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		気になることはいつでも教えていただき、送迎時に直接お話をしたり、電話でのやりとりなどを含め支援を行っています。事業所だけでは解決できないときには関係機関とも連携しています	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	ご家族も参加できるイベントを開催するときにはご案内をし、ご家族同士、きょうだいで交流ができる機会を設けています。	さまざまなイベントを通して交流の機会をもてるようプログラムなどを練ります
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	子どもからの発信を大切にしています。ポジティブな意見もネガティブな意見もくみ取り対応をしています。保護者には契約時に苦情対応の窓口を伝えるとともに、小さな気になることもぜひ教えてくださいと発信をしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	支援アプリHUGやLINE、インスタグラム、ホームページ、広報誌を用いて発信をしています。	見て楽しくわくわくするような発信をしています
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	日頃から法人内では個人情報の取り扱いについていろいろなシチュエーションが出てきたら適宜確認をしています。またスタッフだけでなく実習生にも説明をし、個人情報の取扱いに十分留意できるようなはたらきかけています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	子どもやその保護者の状況に合わせて確認ができ、選択してもらえようような配慮をしています	子どもにあわせてやりとり、情報伝達ができるようさらに工夫をしています
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	同じ建物で開催されている教室の利用者さまとはよくやりとりがあり、子どもたちのコミュニケーションの機会にもなっています。	より多く一緒に活動できる機会をもてるよう企画していきます
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	地域の子どもたちも多く、またさまざまな場所を利用するため避難訓練時にはクイズなどの形式で子どもたちが楽しく知識を入れられ実践につながるよう工夫をしています。	いつ起きても対応ができるよう訓練を重ねてまいります
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	法人内でBCPを策定し情報共有をしながら訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	保護者と連絡をとり状況確認に努めています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	現在は医師の指示書に基づく対応が必要な子どもはいませんが、アレルギー対応はしています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	運動を中心に様々な場で活動をしており、活動内容やシチュエーションに応じて安全対策を行っています。内容や状況に応じた安全対策を講じ、事故やケガの予防に努めています。また、研修や訓練を通して、職員の安全意識を高め、緊急時にも迅速に対応できる対策を整えています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	避難場所などについて共有し非常時にも連携ができるよう取り組んでいます。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	法人内でヒヤリハットやアクシデントの事例を共有し、発生状況や原因についても検討しています。その内容をもとに対処方法や安全管理体制の見直しを行い、予防や再発防止に努めています。	ヒヤリハットの共有が大切だと考えており、みんなで共有を続けます
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	法人内で研修を合同で行い、様々な事例を通して適切な対応ができるよう取り組んでいます。また、職員同士が意見が出やすい風通しの良い職場づくりになるように心がけ、虐待の未然防止と早期対応に努めています。	言いやすい空気作りにも努めます
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	現在自事業所内に身体拘束の必要な子どもはいませんが、法人内で研修を行い取り組んでいます。		